



＜今月の1枚＞ママさんリフレッシュセミナー
(簡単ストレッチ講座)

間違えることを恐れない

教育委員会での勤務が始まって1年が過ぎようとしています。

目まぐるしい毎日の中で、ふと立ち止まり、『自分は果たして何事かを成し遂げただろうか』と反芻するたび、形となった確たるものを目にする事ができず、自らの無力さを思い知らされます。ただ一方で、教育委員会にいるからこそ経験できる大変楽しいこともあり、その1つが「学校訪問」です。市内にある小中6校にお邪魔して、授業の様子を参観させていただいたり、学校の取組について説明を聞くことができたりするのは、学校現場においてはなかなか得ることのできない貴重な機会といえます。

10月末、ある小学校を訪問した際のことでした。

全学級の授業を参観させていただいている時のこと、6年生算数科の授業がありました。変化する数量を表にまとめ、数字の並びを縦や横で見ながら、何らかの規則性を発見するという授業でした。いわゆる「関数」の学習であり、研究授業などでよく参観するオーソドックスな学習の流れではありますが、子ども達にとっては最初で最後の1時間です。どの子も真剣に、表に書かれた数字と格闘しています。ノートを見ながら机の周りを歩いていると、多くの子どもが表を横に眺めて何らかの規則性を発見しようとしている中、ある一人の女の子のノートに目が留まりました。その子は表の数字を縦で見ながら、上下の数字を掛けると同じ数になるという規則性に着目したメモを残していました。『おっ、いい発見。この後の交流場面でこの子が発表したら、きっと周りの子たちに新たな気づき生まれるな』と思っていたところ、瞬時動きを止めた彼女はなんとそのメモを消しゴムで消してしまったのです。『あー、消しちゃった...』。

その後、その場を離れて別の場所に向かったため、授業がどのように進んだのかはわかりません。しかし、どうしても彼女に伝えたい一言が心に引っかかったままになりました。

さて、現在、砂川市教育委員会では、令和8年度の義務教育学校開校を見据え、子ども達の開校時における不安や戸惑いを低減させるべく様々な取組を推進しています。市内小学校の5・6年生による『5校交流会』や『合同遠足』での仲間づくりや大人数に慣れる機会の提供、中学校教員の『乗り入れ授業』による、中学から始まる教科担任制のイメージ化を図る場面の提供など。それらを企画・運営していると、各校の子ども達とも何となく顔なじみ?になってくるもので、ついに“その時”が訪れました。

「あの時、どうしてメモを消しちゃったの？」。

授業の時の彼女に問うてみました。答えはやはり予想通りでした。「『合ってるかな』って、不安になったから」。

全くです。大人でもそうです。失敗したことや間違えてしまったことは、思い出したくなくともすぐに記憶がよみがえってくるほど鮮明に覚えているもので、『ああ、あの時どうして・・・』、『ああ、あれはこうやって・・・』と、ガクンと落ち込んでしまったりします。どんなに歳を重ねようと、やはり失敗することには臆病で、できることなら間違いたくないという自分がいます。

しかし半面、失敗や間違いから学ぶことが多いのも事実です。特に、学齢期の失敗や間違いから学んだことは、社会人になっても大きく生きていることが多いと思います。

「失敗は成長の糧です。どんどん間違い失敗し、どんどん気づき学んでください！」

彼女に伝えた言葉をそのまま、砂川市内の子ども達にも伝えてあげたいものです。

(砂川市教育委員会指導参事 堤 雅宏)